

デスレス
3 THREE
六道神士
Rikudou Koushi
DEATHLESS
YOUNG KING COMICS


ほんとにこっちにカマドさんいるのかな
ゴボ
ゴボッ
とりあえず他に手がかりもなし
ムサシ殿やエンジュ殿の反応からしてミカサ殿の力は眉唾ではあるまい
カマドさんも溺れる事はないんだよね…
まず無いな
う・・・
何かあったと考えるのが妥当であろ…
心配なんだ…
ゴポポッ
もし襲われたらお願いね
当てにするな
吾は水は苦手なのだ
相性があわぬ
フルフル
ゴボ
えー
楽しそうに泳いでたじゃない!


ミズキ殿の中にいるから平気なだけだ
水遊びなど初めてで新鮮での
…初めて？
よくも「水城」などと要塞のような名をつけたものよ
？
第十七話
水のひと



ザザ ザザァ…
ガガァン
…浮いてこんぞ
すごいなあ
感心しとる場合か 素潜りなぞ 2～3分が いいとこじゃろ！
やっぱり 溺れとるんじゃあ！
落ち着きな！
これが 落ち着いとれるか ミカサ！
この子に 異常がないってこた 大丈夫なんだよ


?
なんでフクが関係あるんじゃ…
この子はミズキとつながってんだよ
問題ないんだね？
コクコク
バーちゃん昔っから貫禄あんのな
世界が変わる…
おお…
ピクン
ガタガタガタガタ
ん…
何かあるのかい？
視界が悪くなってきた…
日が落ちかけてるんだ…
ゴボッ
夜目が利くにも限界があるぞ
日が落ちる前に探さないと


ところで…ミカサ殿の占術は相手が消えていても有効なのか？
不吉なこと言わないでよ！
いや…どうもな…カマドが無事なら無事で腑に落ちぬというか…
ちょっとスザクあれ！
む……
カマド！
カマドさん？


なにこれ……
どうなってるの？
カマドさん！大丈夫！
カマドさん！
んっ…
もうっ！
取れない…なんで!?
落ち着けミズキ殿
この呪は…
往昔見た事が…


それよりも
やはりこれは…
気を付けよ！
ミズキ殿！
罠だ！
へ……
きゃああっ
痛い！
痛い痛いーっ
なに!?
なに!?
気を抜くな！

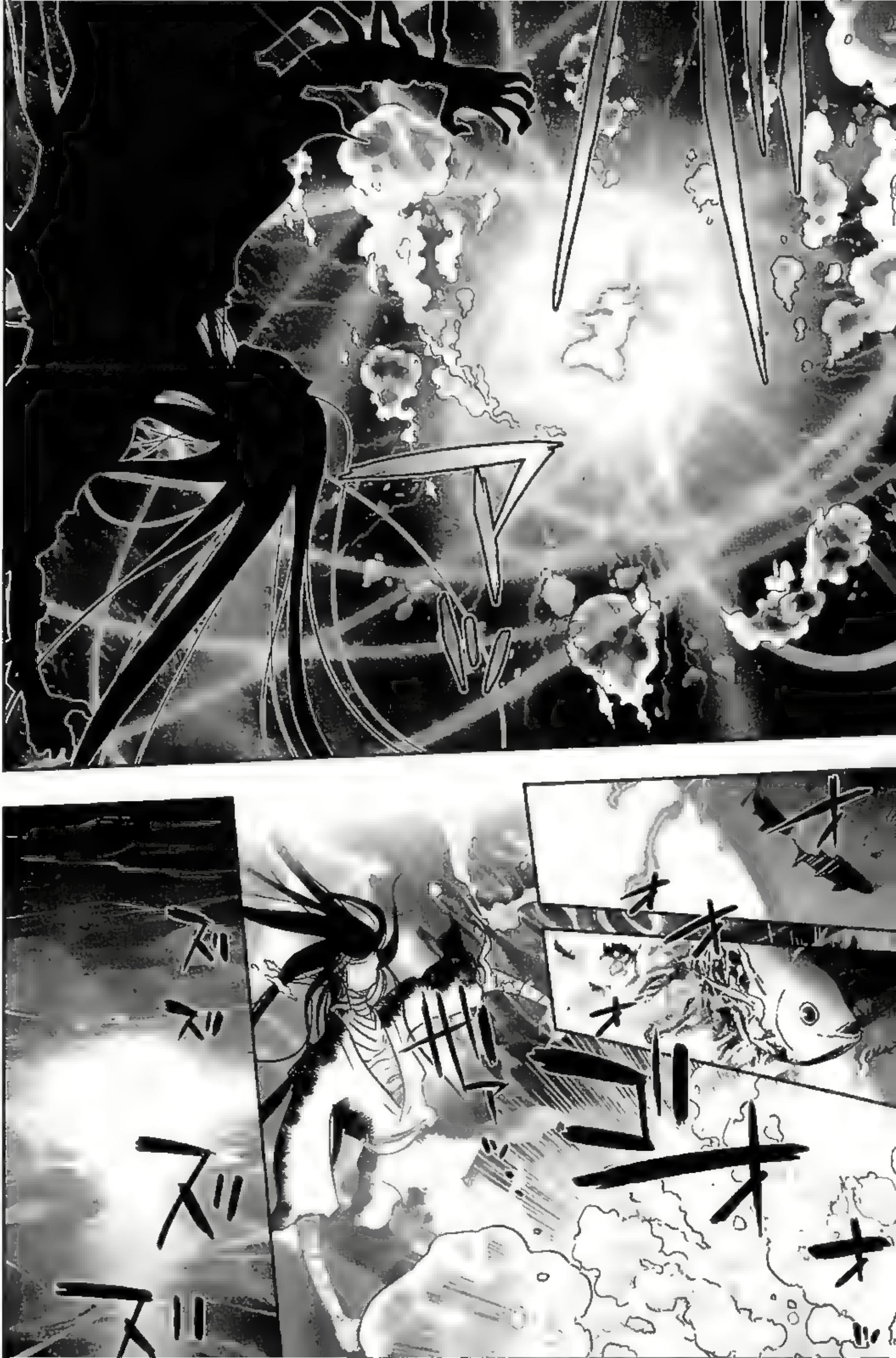

来るぞ！
うえええ!?
ザザザザ
オ
なんか怖そうなの来た！スザク！パス！パス！
ゴボボボ
オ
ムリだと言ったであろ



吾に水中は鬼門だ
そんな！
落ち着いて敵を捕らえぃ！
触れれば吾らの勝ちだ
痛いの…
やだけど！
あっ痛っ？
速！
ムリ！ぜんぜんついていけない！
泳ぐのただでさえヘタなのに！
ふぅむ
では諦めるか
それはイヤ！
って…あれ？
もうっ前に進まな…


足イーーー!!
あっさり喰われおって情けない
逃げっ…
プロペラ…じゃなくてスクリューっぽく!
さっぱり進んでおらぬな
引いて体勢を立て直すこともままならぬ
足を狙ったということは嬲り喰うつもりか
うわーっ嫌な死に方超一位ーっ!


痛あっ！
痛い痛い！
早うなんとかせんかいたた
役立たずーっ
うむ 吾は水中では役立たずだ
あーもーっ
せっかく遊びに来たのにっ
あたし関係ないのにー
化け物は化け物同士でケンカしてよっ！


ゴオオオオオオ
ズズズズ


水柱ぁ!?
僕は生で見るのは初めてだなぁ
ミカサ!どうなっとる!
わからないよ
なんだい今の寒気は…
そんなに凶悪なモンがいるってのかい?
ふむ…やはり見境いなしか…
カマドを巻き込まなんだのは僥倖だの…
おーい しっかりせい ミズキ殿
だいぶたしになった
あ……手が戻ってる…
何したの?
吾ではないわ それより また来るぞ
わっ



ゴッ
?!
速い!?
あっちより速いよ？なんで
ゴォォォォ
ヒュウウン
これで逃げれる！
いや
相手より有利になったのだから反撃せんか
えっと
何をしに来たのだまったく
そんなこと言ったって…
そんなにカンタンに…

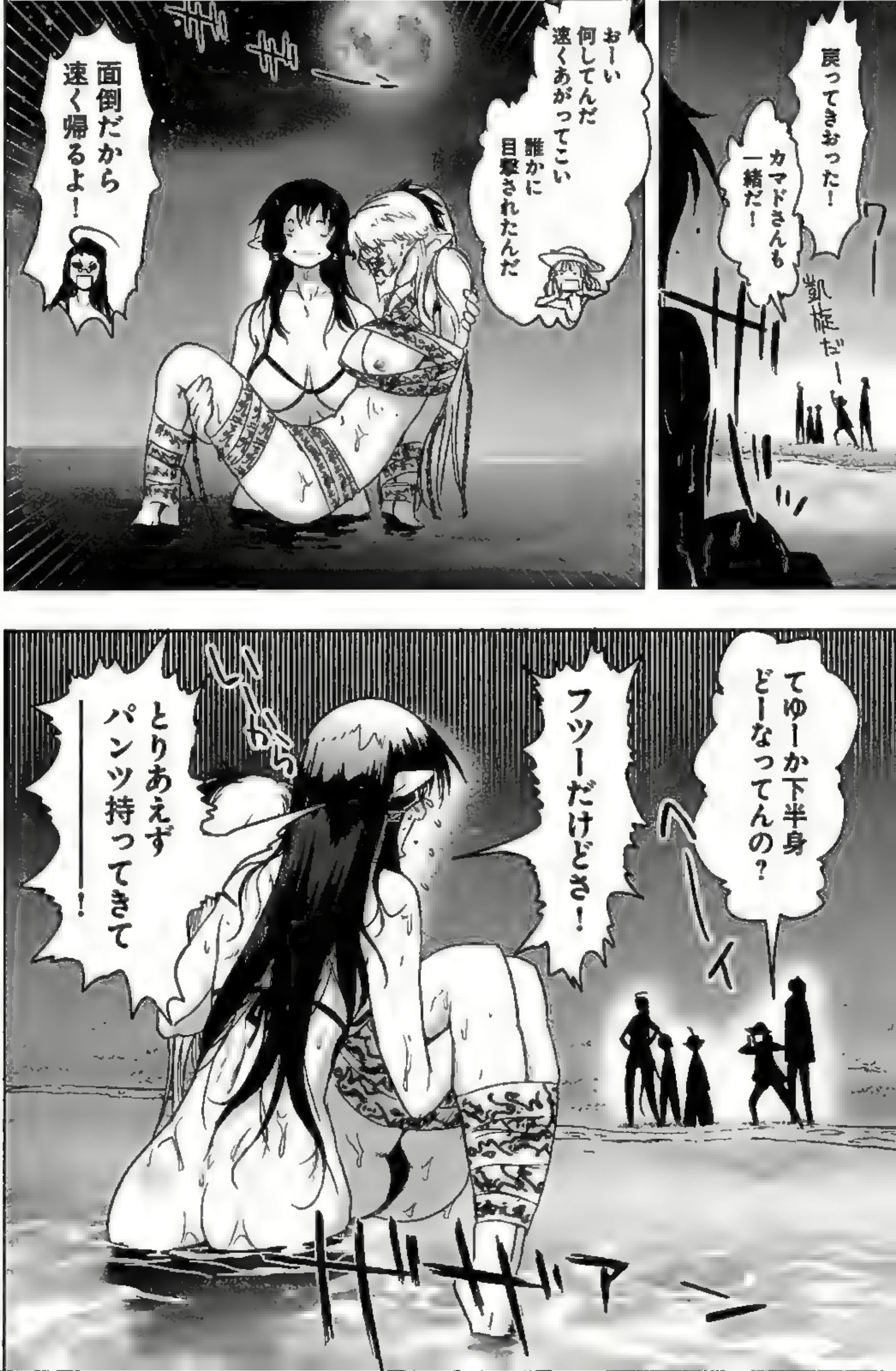

あ…追いついた…
あたし凄くない？
よし！
さっさと喰ってしまえ！
いきなりそれはちょっと…
とにかく少し大人しくさせるね！
……？
どうして？時が喰べれない！
交代せい！
やはり…札が邪魔をしておるのか…
内側ならば！
問題無し


ひ…
食べちゃったの?
吾は
丸呑みなどと
器用な真似は
できぬ
ほんの少し
時を喰ろうた
だけぞ…
にしても
まるで
手応えが…


なにこれ…
作り物？…
いや……
全部ではないな…
ポイ
ナマモノーっ！
いや
あ
あ
おいカマドは…


タパァン
おい なんか今…
シルエットが おかしく なかったか？
にんっ… にんぎ…
わあああ?!
誰かに 見られた みたいだね


きゃーきゃーきゃーー！
なにこれなにこれ！
はーー
速いわけだの
やだーっ！
鱗！ひれ！トロ？
リアルだとぜんぜんロマンチックじゃないーっ
落ち着けミズキ殿
戻っておる
は……
なんなの…
ハウ…


戻ってきおった！
カマドさんも一緒だ！
凱旋だー
ザッ
おーい 何してんだ 速くあがってこい
誰かに目撃されたんだ
面倒だから速く帰るよ！
てゆーか下半身どーなってんの？
フツーだけどさ！
とりあえずパンツ持ってきて——！
ザザザザァー

第十七話／完


ミーンミーン
いただきます
ムシャ
——ミズキです


ひ
海での事件が
色々と尾を引いて
トラウマが増えました
ビク
ガチャン
ズザッ
第十八話
気付いたひと



海での事件は色々と物議をかもしまくってます
♪サッカナーサカナー
姦しい
ひっ
うむ美味い
モクモク
思い出しちゃう〜
普段ほ乳類を平気で食べておるではないか
うーー！
不思議だよねえ
どーなってたんだろうねー
モクモク
内臓とか
フフ…
メシ時に生臭い話すんじゃないよ！
ダン！


あのあと海辺で――
ッたく…
カマド…さん？
どうなってんだい
こりゃ
わかんない…
見つけたときには
こうなってたの


海底で縛り上げられてた?
マニアックだぜ…
ミズキさっきどーなってたんだ?
意識はないのか?
エンジュ!カメラぶっ壊されたいのかい!
ギャイ
ギャイ
この巻き付いてるヤツ取れないの!
かたくてかたくて…
ん~~ッ
グ
グ
グ
ムサシ!カッター貸しな!
カッターじゃないわい!
ギャッ
…ん?
ビリービリー
ビリ
ただの紙じゃないか
え?…
ほう…


キャッ
なにが書いてあんだい…
スゥ
！
消えた…
ピクッ
ピカ
へらしてら！


カマドさん
大丈夫？
ガクガクガクガク
はられ？
フハフハ
お早うさまで
あられまして
へラ
暢気な事
言ってないで！
何があったの？
れれ…
はて…
なんぞ
ありましたれ？
ガク…
大丈夫な
ようだね
だの
それじゃ
とにかくみんな
引き上げるよ！
とにかく
一度落ち着くんだ！
と
――その前に…



スザクさんや…
これ・・
元に戻しとくれ！
……
おっと
何故だ
こんな事に貯蓄を使うんじゃないよ！
元は人様の時間なんだろ？



時の枯渇に関しては気にする事は無い
ミカサ殿にはそのままでいてもらった方が有利なのだが
有利？
今回カマドが無事であったのは敵方の過大評価が間違った方向へ向いておった事と——
何よりミカサ殿の能力に依るところ大であった
「少々の巫者の血筋」などとは…謙遜も過ぎる
正直 吾もここまでとは思わなんだ
見損っておった失礼を詫びよう
よしとくれ
煽ててないでさっさと元に戻しな！
そうじゃ戻れー
ムサシホントに苦手だね


ホント
もったいなくね？
バーちゃん
キレーじゃん
な－
うん…
コク
おい
松川
無責任な事を
言うものでは
ないだろう
…ですが
実際問題として
現実社会で
こんな現象は
受け入れられないと
しても…
折角の若返りを
しばらく楽しんでも
よいのでは
ありませんか？
…
若いほうがいいてな
傲慢ってもんだよ
アタシャ
納得して歳を
取ったんだ
若造にゃピンと
こないだろうがね
老い差れの皺てな
恥と納得が刻んだ
誇りなんだよ


「もう一度」なんざ まっぴらご免だね
アタシの歳月を返しとくれ！
ふむ… 勿体ないが
ミカサ殿の人生には敬意を払おう
――うん


うんみんな大丈夫
カマドさんも元気だよ
まだあたしもわけわかんない
何かあったら連絡するから
うん携帯？買うって今度はほんとに
チン
ハァ
松川殿か
はは…質問攻め
また…巻き込んじゃった…
気持ちは分かるがその思考法は相手の思うツボだ
トトト
パタン
さて…考えねばならぬ事は山ほど有るが…
一番の懸案事項は敵が――
ポロ
一番の問題？…


サカナ！
おう
いや
そのことは…
サカナになったこと！
さして…
問題では
私がサカナになったこと！
おサカナになった
わ・た・し
アレ以上の問題があるか――！
男性器まで
生やしておいて
今更…
直言うなー！
あの下半身全部
関節になった
みたいなヘンな
カンジ……
元に戻ったのだし
それについては
・・・今考えやるな
それよりも…


出先で敵に襲撃された時の重要性を考えぬか
敵の狙いは間違いなくぬしぞ
スザクでしょう!
周りの人を巻き込んじゃうかもって…
夏休みでよかった…
…一応単位稼ぎの夏期講習あるけど…
ドキドキ
対策が固まるまで結界を出ぬほうがよい
ええ…
敵はまだ警戒して慎重に振舞うておる
吾を少々買いかぶっておるようだからの
慎重ってあれで?
考えてもみよ…
結果的におびき寄せられた形になったが…
ミカサ殿がおらねば吾らはカマドを探すことすらできなかったのだぞ?


……間抜けだね
ホントだ
スザク 買いかぶられてるんだ
ナニもできないのにね
……うむ 少々傷ついた…
ていうか敵敵って言ってるけど あれってなんだったの？
わからぬ
今まで吾はカマド以外の明確な意思を持った化生なぞには会うた事がない
あからさまに「役立たず」という顔をされてものう
ム…
印象でよければ…「傀儡」…といったところか
土台は死人であろうよ
うえ… 思い出した…



カマドさんを縛ってたヘンな紙は…
あの呪には見覚えがある…
往年絡んできた僧の芸風に似ておった
ソウ？ 昔スザクと良い勝負をしたって言ってたやつ？
見た目がの雰囲気はまるで違うが…
あれも含めて… あるいは以前ミカサ殿の言っていた「式」のようなものやもしれぬ
操ってるひとがいるってこと？
確定はできぬが…



フクウ…
ホヘ
ARE
あれの操りぬしはフクウの元の主か？
？
ハッ
オロロロロ
この反応から察するに…間違いなかろう
っていうことは…
ピイ
あれで終わりじゃなくて…
次の手を打ってくるであろうな
敵の目的は吾らだ
結界にいる限り安全ではあるが…
……
こっちから仕掛けられないの？
ピク


ほ…
ミズキ殿から そのような言葉が 出ようとは 勝ったも 同然ではないか
嫌味は いいから！
闘うのは スザクだし！
…嫌味では ないのだが…
方法はある
ピク
！
だから ミカサ殿を 引き留めたのだ
お婆ちゃん…？
ミカサ殿の 占術は正直 たいしたものだ 敵すら探知 できるやもしれぬ
うん… あたしも正直 半信半疑 だったけど…
うむ実は 吾も
でも……


あのときの
お婆ちゃんの言葉
ちょっとショック
だったの
考えてみたら
あたしが子供の頃に
戻りたいかって
言われたら微妙で…
いや…そういう事じゃ
なくって
一生懸命
生きてきたことを
簡単に考えすぎって
いうか…
ええと
これも違う…
言葉を選ばずとも
よい
言うてみよ
…あのね？
なんだか
あたしはもっと
足掻いて生きてた
気がするの
なのに今は
そういう
底のほうの
不安が無いって
いうか…
……不安が無いのが
怖い…


ミズキ殿が
薄々感じ至って
おるのだ…
聡いミカサ殿が
どういう事か
気付くのにさして
時はいるまいな…
ムー
あれ？
バカにされた？
マジメに話したのに
それにしても
ミズキのあの
有様は……
フクの時と
同じってわけかい？
難儀なことだ
まあ多少は
ミズキの気分が
わかったけどさ


こんなババアを
若返らせるなんざ
危険な事を…
まったく
また時切れにでも
なったらどうす…
待ちな!
ミズキはまだ・・・割り切ってない・・・
いつから
この状況は
続いてる?
スザクさんは
なんて言った?


…お婆ちゃん？
正座っ
ミカサ殿…
お気付きか…
ああ…
何があっ…
わっ
このオイボレの耄碌ぶりにね
こないだからスザクさんの言ってた事の意味が分かったよ
内証話ができぬとは不便な事よな
まったくさね
？
正体は…
吾にもわからぬ…
なに？
何の事？


・・・これは本来この地とミカサ殿の血筋しかあずかり知らぬことなのであろうな
古代の中央の巫者に匹敵する血筋がこのような場所に埋もれておる事と無関係ではあるまいよ
ああ…どこかで手違いがあったようだ…
資料の方向性を変えて洗い直すさ
それと…
?
?
巻き込んじまったようだね…
ふ
なんの
はは…
永き旅のよきとぴっくだ


さて…
アタシ…いや ウチらも我が儘を言える立場じゃあないようだ
よいのか?
恐らく大義は敵方にあろう…
は……
愚かな爺婆と孫の生業に大義なんざいるもんかね
ヒュゥ..
仲間にいれて―
あたしを置き去りにして会話しないで――!
ね―
いいところだ もう少し我慢しやれ
ククク
今希代の孫冀遒と話しておるのだ
フッ
……否定はしないよ
第十八話/完

第十九話 決意するひと




それは…
つまり…
キリがないって
ことかな?
無限かどうかは
わからないさ
――ミズキに…
そりゃ
気付かせちゃ
ダメだねー
はは…


んー
ミズキ根性無しだしー
プレッシャーに弱いしね
附和雷同で…
無計画…
フウ…
ワシらの孫になんちゅう言い草じゃや！
だいたいミズキが他人様の…その…時ってのを喰らわにゃ死ぬというのが問題だったんじゃろ！
ワシらは地獄に落ちる覚悟でミズキに人を喰えと言うたんじゃろが！


それが…
ドス
サカナじゃろがなにからじゃろうが時を喰らえるんじゃったら人様に迷惑をかけんでも済むんじゃろが！
解決しとるじゃないか！
とっととミズキに教えて安心させれば…
阿呆（あほ）なこと言うんじゃないよ
なんで阿呆じゃ！
阿呆だから阿呆と言ったんだ！
アンタの間違った甘やかし方でミズキをこれ以上ダメにしないどくれまったく……
甘やかすもなにも──


そもそも
おかしな妖怪変化が
ミズキに取り憑いたのが
悪いんじゃろが！
いやあああ
な…
なんじゃ
その目は
…ムサシ
何聞いてたの？
アンタ…
どっから
間違えてんだい


いいかい
よくお聞き
ムサシ言うところの妖怪変化が…
如何ほどの化け物だか冷静に考えてみようじゃないか
確かにここんとこ慣れちまってるがスザクさんたち自体どこまでもよくわからない存在さ……
しかも情報のほとんどは当の本人らの自己申告だ
信憑性が低いこと前提ってことね
ふん…


まず スザクさんだ 本人見たこたないがね
スザクさんや カマドさんは よくわからないが かなり永いこと 生きているようだ
まあそれなりに 人を喰っていたんだ ろうさ
スザクさんの場合 まあ約定だか 約束だかに 縛られて見境無く 喰うわけじゃあ なかったようだが…
だがそれを 取っ払って 考えても——
・・・・・・・・・さほど喰えない


貯める事ができないって言ってたね
理屈はわかんないねぇ
大量に喰ってもムダなのか――
喰い過ぎると何か問題があるのか
ハラでも壊すんじゃろ
そしてカマドさんだ
どんな性質の違いなのかスザクさんもわかってないようだが…
カマドさんの方は時を貯めておけるそうだ


どの程度のことなのかアタシらにゃ知る由もないが…
大量に喰って意味があるってのが問題さ…
想像したかないが戦時中に結構貯めたとか言ってたしね
ゴゴ
ゴゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ム
ウ…
だが救いはあの性質だ
欲や危機感…あと攻撃性と無縁――
空腹感を紛らわす以上の事はしない
ホッホッ
まあ…邪悪に見えんのは認めるわい…
それで何が言いたいんじゃ…
…ここまではバランスが取れてるって事さ
スザクさんもカマドさんもあんな異常な存在なのに――
ウ…


人間社会にとって
ぜんぜん脅威じゃ
ないよね
まあ人数
少ないし
後から襲ってきた
フクウがどんな
タイプだかわからないが…
スザクさんが
初めて同類を見たって
言ってたくらいだしね
それでも
今まで表沙汰に
ならなかったのは
奇跡さ
誰も信じないよね
こんなこと
信じられない
ような事なうえ
規模が小さいし
一共同体ごと全滅するとか
何百人単位が消えるとか
原因不明でも注目される
くらいの損害が出ないと
せいぜい
都市伝説扱い？
楽しそうに
何が言いたいんじゃ！
ヒナミザワ
級くらい？
だから
スザクさんたちが
どれくらいの
化け物かっていう
話でしょ？
危険性でいうなら
軽い風邪程度
じゃない？
現に何人か
喰われとるじゃろ！
風邪で死ぬ人も
いるさ
まあとにかく
そんなもんだ
で——


――其処へ来て
ミズキだ
理由は知らないが
スザクさんたちが
喰うのはあくまで
「ヒトの時」だ…
しかしあの子は
別のものからも
喰っちまった……
「喰う」って
いうより
「取り込んで」る
かんじ?
じゃからそりゃ
取り憑かれた
せいで…
どうもミズキが
喰ってるのは
スザクさんたちとは
別のものみたい
なんだよ


ほら
こないだ
ミズキ生えたって
大騒ぎしてたじゃない？
キサマ
最低じゃな
BANG!
ミズキが
人魚になったの
見たでしょ？
む…
見た…
それが
どうした
だからさ
時を喰うって
いうのも元々は
スザクさんの
能力で——
そういう
在り方ごと
ミズキが
取り込んだんじゃ
ないかって
こと
何言っとるんじゃ
まるでミズキが…
確証はない


あたしらには確認のしようもない
ただ表面上の事だけを見ても——
既にあの子は不老不死で…
ほぼ無敵なんだろうさ
…ひ弱なよりはええじゃろ
莫迦言うんじゃないよ
このままヘタなものを取り込んでいったら——
あの子は一体——
……………………なんになっちまうんだい?



スザクさんはあんな存在でも破滅的な性質じゃあない
気付いた上で…あの状態なりにアタシらにヒントをくれてた
ミズキを喰おうとしたとはいえ結果的には被害者さ
被害者ってヒトではなかろ
フン!
ミズキを喰おうとして目論見が外れただけじゃろうが
あの子を殺したのはチンピラさ
あの時点で…スザクさんがいなかったら…
何が…起こったのかはわからないが…普通に考えりゃミズキはそのまま死んじまってたんだ


そして確かなのはスザクさんがはじめから言ってた通り――
ミ・ズ・キ・が・ス・ザ・ク・さ・ん・を・喰ったってことだ
孫より化生の言い草を信じるのか…
全部スザクさんらの企み事だって可能性はあるさ…でもね
今のこの有様はスザクさん達に何の得もないんだよ
むう…
うむまったく
ムサシ…アンタがミズキの立場だったとして…
いきなりこんな有様になったらどう思う


ドドドン
自分が何でも喰って取り込んで同化する化け物に…
ワシなら？――
わかるかそんな事！
そうさこんな事
…ひとの範疇じゃあない


そしてアタシらは…
ミズキが・・・なんなのか・・・
誰一人知っちゃいないのさ
……わからいでか


ミズキは…ワシらの孫じゃ！
何 当たり前のこと言ってんだい
ん？
そりゃ前提だよ
あの子が無敵の化け物だろうが関係ない
アタシらは地獄に落ちてもミズキの味方をするって決めたろ？
当たり前の事リキんでもカッコ悪いよ？
じ…
じゃあどうするんじゃ！
だからまずミズキに自覚・・・させない事だ
心の問題さ


ミズキの心を・・・・・人以外のものにしちゃやだめだ
ただでさえあの子は――
流されやすい
「ミズキはスザクさんに取り憑かれておかしなことになってる」
「元通りにする方法を探してる」
こう思わせたまま――
解決策を探す…と
ウソは苦手じゃが…
そして今の問題は内側だけじゃない
相手もわからないまま二度目の襲撃を受けてる



わからん事だらけじゃな…
実際旗色は悪いね
前向きに考えようよ
敵の方が手がかりを持ってる可能性あるよね
チュー
少なくともスザクさんらを標的にしてるってことは何か知ってるんじゃない？
ひっとらえて吐かせればいいんじゃな
そうだ今後はアタシ等で食い止めるいっそ攻める方針でもいいだろう
手段は選ばないよ
ぶーん
わかってるね？ミズキを矢面に立たせるのは危険なんだ
ミズキ自身が危ないんじゃない
敵がヘタに強けりゃ強いほど——



それをミズキが取り込んじゃったら……
手の届かない化け物に成り果てる可能性がある――
じゃがどこまで行っても中身はあのミズキじゃろ…
そこまで
もう影響は出てるさ
アタシャ若返った時あの子を怖いと感じたよ
あの子ぁ悪い馴染み方をしてる
既に力に振り回され始めてる
お調子者だからねー
育て方を間違えたかの…
むー…
いいかい


倫理も法律も知ったこっちゃない
とにかくアタシらにできる方法で人間のミズキを守るんだ
世間の敵に回る覚悟をしときな
クッ
…ってまあ…
クックックッ
プッ…
スザクさんには…孫莫迦と笑われたよ
それを言うなら爺莫迦じゃないかな
婆莫迦じゃ
ははは
トントントン
おはよっ
ガラッ


あれ珍しい みんな揃って
ちょっと茶飲み話さ
どっか行くのかい？
アルバイト！
はっ
ああもう時間が！
夏休みだからってダラダラ寝てるからじゃろ！
寝苦しくってクーラーくらいいれようよ
言ってきまーす
あ…
スザクさんや！
ん？
おわ


―
承知
なに？なに？こないだからなんかあたしハブられてる？
ムッ
バカばかりよ 気にするでない ほれ あるばいとに遅れるぞ

第十九話／完


チュン
チュン
ブンッ
ダンッ
ブンッ
ダダンッ
フゥ…
朝飯がまだじゃとな？
めずらしいね
カマドさんが寝坊なんて
ミズキもまだ寝てるしね
また
あるばいとに
遅れるとか
わめくんじゃろ
まったく…
ダッ
ダッ
ダッ
チャッ
くぉら
起きんか
ミズキ！
！



第二十話 忍び寄るひと


はッ
はッ
はぴん
バッ
起きろ!
起きんか
ミズキ!
ドンドンドンドン
ドドドドン
タァーン



わーっ
わーっ
ドタ
おう？
なにこれ！なにこれ！
げ！こんな時間!?
わあああ
ぽえ～
ミズキは！
「そんな趣味ないもん」とか叫びながらバイト行ったよ？
ったく仕方の無い



おはよう
さまにてー
トム
トム
おはよ
何があったんだい
カマドさん
起こして
ほしけりとて
言われて
おりましてれば
姫様
朝でありけます！
パ
ー
ン
あさー
あさー
ん
あ
れ？
ガ
ッ
シ
捕まりたり
されてまま
ー
はりら
寝てしまえたり？
大丈夫
なのかい？
喰われたり
したんじゃ…


知らねど
お腹はいっぱいで
ありましたり
はれ？
ふーん？
ボクらは
お腹すいたねえ
朝ご飯に
しますれて！
チッ
ガラッ
ガタン
まったく……
どいつもこいつも
化け物慣れ
しおって…
ハーア・・
ブツ
ブツ
敵なぞ
本当におるのか…
家の中の方が
よっぽど
異常じゃ
プァァァン



やっとバイト終わったー
タス
タス
遅刻して迷惑かけちゃったし…
よいのではないか？役に立っておったようには見えなんだし
ほっといて
朝っぱらから混乱したせいよ！
寝ぼけてたとはいえ自分に引くわー…
ふむ…今朝の事といえば…
あ
フラ
フラ
フラ
あの…大丈夫ですか？
おお
酔っ払いか？
そんなカンジじゃないよ


すみません
急に目眩がして…
ハァ…
ハァ…
うわ…大丈夫ですか？
救急車とか呼びます？
あ…いえ もう少し休めば歩けそうで…
じゃあ…
こんな暗いとこで倒れてたら危ないですし
きゃっ
グッ
ち…力持ちなんですね
…目の前あたしん家なんでとりあえずそこまで運びますねっ
スタ
スタ
グイッ
すみません…お邪魔していいんですか？
あ…はい もちろん


こまった時は お互い様って いつもお婆ちゃんに 言われてるし
役立たずなどと 言ったせいで 張り切っておるのか？
うるさいなあ
ありがとう…
お言葉に 甘えます…
お婆ちゃーん！
何事だい 帰ってくるなり 騒々しい


この人
ウチの前で
倒れてて…
気分悪いって
そりゃ
難儀だ
どんな
具合かね
救急車
呼ぼうかい？
ハァ
ハァ
いえ
そこまでは…
すみません
ブルルッ
？……
姐様(あねさま)
お帰りなし～
お土産
うれしいのでして～
土産など
ないわ
気のせい
かい？……


ご飯の
お土産では
ありませないので？
しつこいのう
今朝のお詫びに
今度何か
買ってくるよ…
……
ごはんで
ないなれば…
なにして
死骸（ムクロ）をお連れて
いられますので？
なに？…
むくろって…
何言って…



な…!
ガッ
なんてこった…
ドタドタドタ


何事じゃあ！
ダダッ
敵だよ！
敵ぃ!?
たった今 池の方にミズキが一緒に飛び出してった
どっ…どんなバケモンじゃ！
ウチは安全じゃなかったんかい！
搦手(からめて)で来くさったのさ！
バカったれが！
待ちなムサシ！
ポンコツが出張ってミズキの足引っ張んじゃあないよ！
ほっとけっちゅうんかい
ミズキを行かせるのはマズいんじゃろうが！
その通りだ


だから アンタも 覚悟は してんだろ？
延寿（えんじゅ）のバカは 留守だしね！
どうせいと…
ムウ・・
カマドさん
テロテロ
ははえ びっくりいたしてましたな
折りいって 頼みがあるんだ
？
ハッ・・・


うわ怖！
どーして？
ウチには入ってこれないんじゃなかったの！
やれやれ
ミズキ殿が引き込んだのだぞ？
あたし？
入って・・・よいか・・・と聴かれて・・・応じたであろ？
そんな事で？
出入りするものの取捨選択をする――
結界とはそういうものだ


しかし…となれば結界の主体がミズキ殿と通じておるか…
あるいはミズキ殿自身ということだ…
この結界は…
封印としてのものではないのか
変わってくれるの?
今 ミカサ殿らの方に行かれては面倒だからの
わっ


陽動は器用な判断が必要だ
あれ？不器用呼ばわりされた気がする
ザザァァッ
さて…時間は稼ぐぞミカサ殿
…しかし
攻めてきたわりに消極的な奴だの
ギギギッ
何かを探しておるのか……？
ザザザザッ
む…


小癪
例の呪を使っておる
ちと面倒だの
ねえスザク
痛い…
変わって…
おう?
待ちやれ
ちと油断しただけだ
ミズ…


あたしのせいで…
待て待て ミズキ殿！ 時間稼ぎを——
うちにまで 押しかけて 来るなんて…


ああ苛々するゴミクズのくせに
いかん！
下がれいミズキ！


…って あれ？……
なに？ なに？
遅いのう まったく…



え？・・・
まさか・・・
さっきの声・・・
第二十話／完


まさか…
間に合ったかい？
遅れてすまないね
ギリだの
あ…
あのバカカマドさん相手にオタついちまって
ミカサ殿の人選は信じるが…大丈夫かの？
まあ見ておいで
え？え？
急勝なくせに鈍臭いね！とっととやっちまいな！ムサシ！
一大決心してかけつけたっちゅうのに誰も褒めんのかい！
ムサシお爺ちゃん…？
やっぱり…
褒められたきゃちったあ恰好つけんだよ！
ふん…


第三十一話
猛るひと
いやかましいわ！
大見得でも
切れっちゅうんかい！


むっ!?
おじいちゃん!


ほ…
御血筋だの
つよい…
お爺ちゃん…


ムサシ お爺ちゃん 大丈夫なの？
うむ…失礼だが ムサシ殿の事も かなり見くびって おったわ
上っ面ほど 意気地が 無いのが タマに傷さ
厳しいことだ
任せっぱなしで いいの？
あたしたちは…
ミズキ殿は 駄目だ
ミズキは 引っ込んでな！
なんで？ いつもなら…
もっとしっかり しろって…
ムサシ！ わかってるね！
おう！
ミズキを これ以上…


わけのわからんモンにしてたまるかい！


おい！こやつ……
本当にバケモノなんじゃろうな！
バケモノというか…依り代は人間の死体だの
ヘタレが…
あいつぁ人斬ったこたないからね
いやいやいや当然でしょ
…？主義の問題か？
主義というか宗教…でもないなんて言ったらいいかね…
少々難しいが…かたちが気になるというのであれば——
呪を壊せムサシ殿！
しゅ!?


あやつの主体は言うてみればまじないのようなものだと思う
まじない…？
あの呪いの紙か！
早く言えい！




ほー
見事…
えええ
ふん…
ミカサの気分も
わかるわい…


こりゃあ…
夢じゃ
ヘタレが
手間ァ
かけてんじゃ
ないよ!
お
張り付いてたヤツぁ
また消えて
無くなったね…
うむ…確実に
海での相手と
根を同じくする
相手であろうな
安全なのかい?
呪は消えた
最早これは
ただの死骸に
すぎぬ
いや・・・
ただの死骸って!
ビシ
どーすんの
これ!


食べるのでありしき
お腹がすいてみえましてく
だめっ!
食べぬならどうする
どのみちこのままにゃしとけないねえ
勝手に荷物を漁らせてもらったけどさ… 身元は多分普通の… 隣町のOLさんだよ
あの…ワシは…
何か…
アンタのこた後だ! 隅っこで悩んでな!
ワシ頑張ったじゃろ?
さほど選択肢はないぞミカサ殿
ああわかってるよ


さて…
どうしたもんかね…



あれ？……
わたし いつの間に 帰って…？
え？
いやだ… わたし裸で 寝てたの？
こんな季節 だからって
我ながら 最低…


ただいまー
家はわかったかい？
誰にも見られてないだろうね
うん一人暮らしで助かった…
指紋なんか残してないね？
まるで犯罪みた…いや犯罪か
130条..
でもとりあえずよかった…
元より
あの女性はなにがしか別口で死んでおったのやもしれぬのだが…
だからってほっとけないじゃない
まあミズキ殿の気が済むのであればかまわぬが…


少なくとも
あの人は
一度は
死んでたんだ
事故で？
事件で？
あるいは犯罪か…
誰かの罪が
無かったことに…
何より
あり得なかった
人生が一人分…
ああ…
スザクさんらが
なるべく
このことに
触れないように
してるのもわかるよ
人様の運命に
手を出すってな…
怖いもんだ
パリポリ
別に吾は
そのような理由で
気を遣うておる
わけではないがの
助けられ
たんだから
よかった
じゃない
うまうま
こないだの
海の死体は
バラけちゃって
どうしようも
なかったし…
よしな
ミズキ


アタシ達ゃあのひとに関わる全ての人の今後の運命を変えたかもしれないいんだよ
人の生き死にってな神様にだって気安く扱って欲しかぁないもんだ
大げさな…
そんなこと言ってたらお医者さんとかどうするの
それとは大分問題が違うよ
ミズキ…アンタは特に気安く考えちゃいけない
しかしまあ…ミカサ殿の煩悶は杞憂であるやも
此度の相手は人形に仕立てる為に殺されたやもしれぬしの
あ
だとして巻き込んじまったことにゃ変わりないし多分そりゃないね
それだったらもっと気の利いた戦力を選ぶだろうさ
もわぁぁぁぁぁぁぁぁぁ!

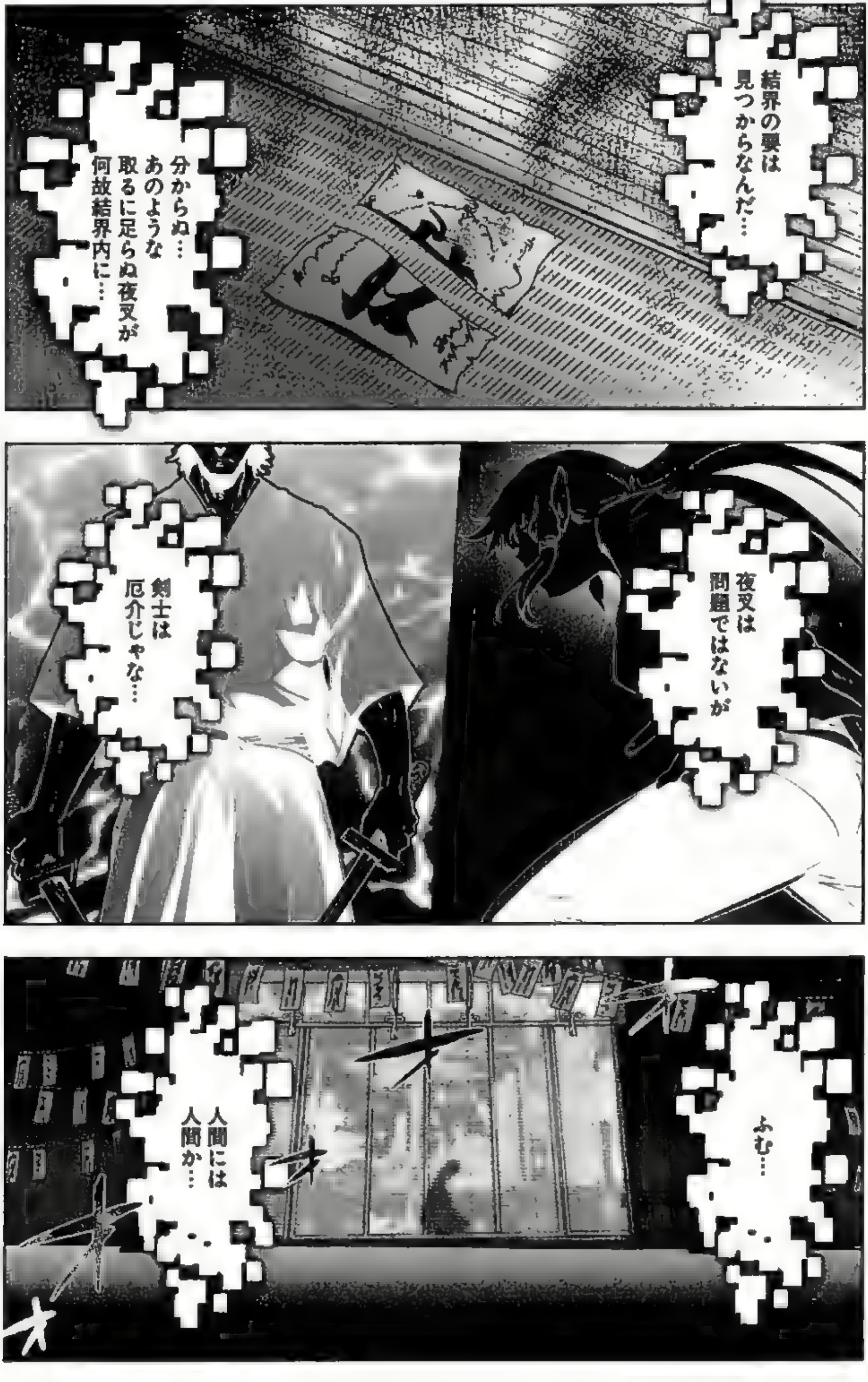


生娘でもあるまいし気持ち悪いね
一言くらい労ってもええじゃろ!
孫ほどの娘にいちいちオタついてんじゃないよ!
ちっちがっ!…
だいたい何勝手に戻ってんだい
これからちょくちょくあんだから慣れときな
本気か!?
あれは…
たまらんぞ…
ヘタレだねえ
ふん…キサマに言われとうないわ
お疲れお爺ちゃん
すごかったね


たいしたこた ないわい！
ホントに 強かったんだね…
なんで 過去形じゃ！
今だって 本気になりゃあ あんなモン…
謙遜するものでは ない
吾も今まで あれだけの 遣い手は そうは見なんだ
確かに 器用だったよね… 紙一枚だけ
いや あれは紙を切った だけではない
敵の呪ごと 斬りさいておった
ムサシ殿の あれは 破邪の剣ぞ
単純な強弱の 問題ではない
へー
ふ…ふん 軽いもんじゃ
図に乗るから あんまし 褒めないどくれ
ただいまー


延寿(エンジュ)お爺ちゃん
玄関の戸壊れてるけど何かあったの？
アケミかカナコが来たとか？
アンタは刺される前に身辺整理しな
へえ…成る程
お客さんが来たんだ
うむミズキ殿が連れ込んだ
ぶった斬ってやったわい！
女の人ならぼくもいたかったなー
そんなことより延寿！収穫はあったのかい？


収穫とは…
何かしておったのか?
ミカサひどいんだよ
地元の地主のバーさんたち誑し込めって言われてさ
なんでまた…
ふふふ
成る程…
代々の有力者か…
女性は幾つになっても女の子だなって
ね——
気持ち悪い経緯はいいから結果だけ言いな
収穫は——
収穫は無しか…



結界の要は見つからなんだ…
分からぬ…あのような取るに足らぬ夜叉が何故結界内に…
夜叉は問題ではないが
剣士は厄介じゃな…
ふむ…
人間には人間か…

第二十一話／完



ザッ
ザッ
ザッ
結界の要を探せ――
――裏庭のこの池に気を付けるんじゃぞ
――蚊も湧かんし水草も生えん


おそる
おそる
タ　ポンッ
カポッ
カポポッ…
オオー


100円
ショップ
2F
第二十二話
思い上がるひと



ゴオッ
ザザァ…
ザァァァ!


最近夜歩きが多いのう
あふ
なんだか眠くなくて
力が余ってるかんじ…
まあ…体に慣れるにはよいとは思うが…
毎晩目的もなくうろついてよくも飽きぬものだ
コンビニ前の中学生か
付き合わされるフクウの身にもなれ
このところ何やら疲れておるよう…


事故!……
まさかひき逃げ？
道交法違反プラスたぶん過失傷害！
…道交法よくわかんない…
じゃなくて！


ヒュウ…
ピクッ
ホ…
っ…
ザザ
?
ヨロ
ヨロ
ハッ
…なんか…
文句ある?
別段


……無駄遣いしたよ？
思ってもおらぬ卑下を口にせずとも無駄とは言わぬよ
…ねえスザク
あたし…ここんとこロクに時を食べてないと思うんだけど…
結構消費してるよね？
でも消えそうな気配もないし…
いくらミズキ殿でもそろそろ疑問に思うか…
あたし…また無意識に他人の時を食べたりしてるのかな
………


この間 起き抜けに カマドを つまみ食い しておったであろ
あああ! あれ?
そうだったんだ! 道理でお腹が 空かないと!…
悪い事しちゃった カマドさん大丈夫?
あわわわ
まあ あやつは ため込んで おるからの
カマドさんの 好きなモノって なに?
食い物 であろ
はう
…今度何か お土産 買っていこ
……と いうことに しておこう
危ういの



延寿(エンジュ)収穫てな
なんだい
うん 役場の知り合いのツテをたどったらさ
ハイジの話にいきあたってさ
ハイジ？
フォッフォフォー
うん そっちじゃなくてね
君ら 鬱陶しいなー
メへへへ
メへへへ
ワクワク


廃れたお寺の方の廃寺だね
ああ廃寺…
なんだと思うたのだ？
お寺ってツブれるんだ…
廃仏毀釈って習わなかった？
まあ近代でも経済的に倒産する寺社があるけどね
で 廃寺がなんなんだい
昔このへんにお寺があったらしいんだ
もう跡形もなくて宗派も本尊もわかんなかったんだけど
好事家のひとがそこの資料を引き継いだらしいってことだけつかんでさ
？
普通その宗派の本山なりなんなりが処理するんじゃないのかい そういうのは
それこそさっき言った明治の廃仏毀釈のときにゴタついたみたいだねー


その寺の資料がなんなんだい
うーんなんだかね
かなり古い文献にウチの昔の神社の事がちらっと出てくるんだって
ほう…？
その好事家のひとがその神社…つまり昔のウチに興味を持ってさ
役場の方に問い合わせたらこのとおりフツーに民家だったからなーんだって諦めたらしくて
何が書いてあったか知らないけど…
それくらい興味深かったたってことでしょ？
その問い合わせを覚えてた役場の人からたどってね
情報を引き出していった…と


苦労したした
クスクスクス
まあ手段に関してはこの際ツっこむまいさ
ほーえ
あ…
で？その好事家のひとってな
地元の旧家だねー代々土地持ちで
まあ時代で一族は上京しちゃったりして本家には未亡人の一人住まいなんだって
イヤになるくらいアンタにうってつけの仕事だね
ゴゴゴゴ
いや いや
流石にボクのストライクゾーンも無限じゃないよ
アンタの好みはこの際無視だよ
その資料とやらに目を通してきな
えー
ミカサ殿


吾も同行してよいか
スザクさん？
ちょっとスザク夏期講習とバイトが——
この地の由来については吾も興味があるし…
古い文献を紐解くのであれば吾は役に立とうぞ
うん助かるなー
その場で調べるとなったらぼくミカサほど古文書は読めないし
さすがに持ち出しはさせてくれるかわかんないしね
先日みたいなバケモノが襲ってきたらどうするんじゃ
とりあえずこないだのはイレギュラーさ
そうなんだろ？スザクさん
イラ


ここは基本的に結界に守られておる故――
うっかり招かぬ限りひとでないモノは近寄れぬ
うっかり…
わしらの事じゃのうて…
ムサシ この場でその話をすんじゃないよ
チラ…
まーねー けど情報を集めないことにはどうにもね…
ピンポーン
ピンポーン
ピ


ドドドドドドドドドドド
ピ〜
ぽおん！
ぽおん！
久しいのう！チンピラ！
宮森さんも相変わらずお元気そうで
わたくし晴れて再びこちらの担当になりまして
今日は改めてのご挨拶に伺いま
挨拶なぞいらんわ！


待ちな！
アンタ…なんといったかね
ジロ
青山不動産の旦月と申します
改めてお見知りおきを
ここを欲しいって人の代理なんだね？
はい是非ともにと
前向きに考えてやろうじゃないか
フン
ミカサ！
お婆ちゃん!?
……？
もしや…
水城さん…ですか？
はい？


あ…
しまった!
随分とかんじが変わられたような…
せ…!
言いきれ!
整形しました!
いえ……これは立ち入ったことを…
悪い!?!…
それより検討していただけるというのは本当ですか
あくまで考えてみるだけだよ
ただし条件がある


ここを欲しいって言う
スポンサーさん本人に
会って話がしたいね
それは…
…わかりました
相談してまいります
ガラ
タン…
おい
ミカサ…
お婆ちゃん…
いいの？
え～と…
ひっかかっちゃあ
いたんだ…


こんな土地
躍起になって
欲しがるなんざ…
まー
周囲にいくらでも
平地が空いてるしね
帰った？
ごろごろ…
何か…
関わっとるかも
しれんのじゃな？
むう…
わかんないよ
ただの物好きかも
しれないしね
だが
今はなんでも
手がかりが
欲しいさ
延寿にばかり
働かせても
おけないさ
あー!!
思い出した！
なんだい
ミズキ
お爺ちゃん
お婆ちゃん！
ここの土地の名義が
あたしって本当？


本当だよ
…あいつに聞いたんじゃな
そのうち話そうと思ってたんだけどね
あんたが20歳になったのと同時にアタシらで話し合って生前贈与の手続きをしたんだ
なんで？…
そりゃあ——


アタシらなんて
もう何があっても
おかしくないからさ
そんな…
そんなの…!
ミズキ殿、
そんなの
どうにでも──
なんて
アンタも
将来のこと
考えるんだよ
まあ先々はこんなとこ
売っちゃっても
かまわないんだけどね
生きるとか
死ぬとか
どうにだって…
とか


……
……
……
……
……
……
あたし…
何考えてるの?
あたし…もしかして…
もう元に戻りたいとか思ってない…?
………
疑問に思うのは良いことだが…
人格の強度が足りぬのが問題だの
最悪な流れはミズキ殿が自棄になることだ
効果的に自制するきっかけがあればよいのだが…


ミーン
ミーン
延寿お爺ちゃん ここでいいの？
うん 間違いないね
古そうな家…
もうなかなか お目にかかれない 建築様式だよ これ
お婆さんの一人暮らしにしてはでっかい…
うん 丁度約束の時間だ
行こうか
ごめんくださーい
第二十二話／完


そんなに珍しい家なの？
チキィ
うーん…よく維持してるなってかんじ
昭和初期ならまだしもこんな分かりやすい数寄屋造り今時なかなかお目にかかれないよ
好事家ってのはウソじゃないなー
確かにの
それにしても今日は暑いね
ここクーラーとかなさそうだなあ
そうなの？
…よくわかんない
こりゃ重症だ

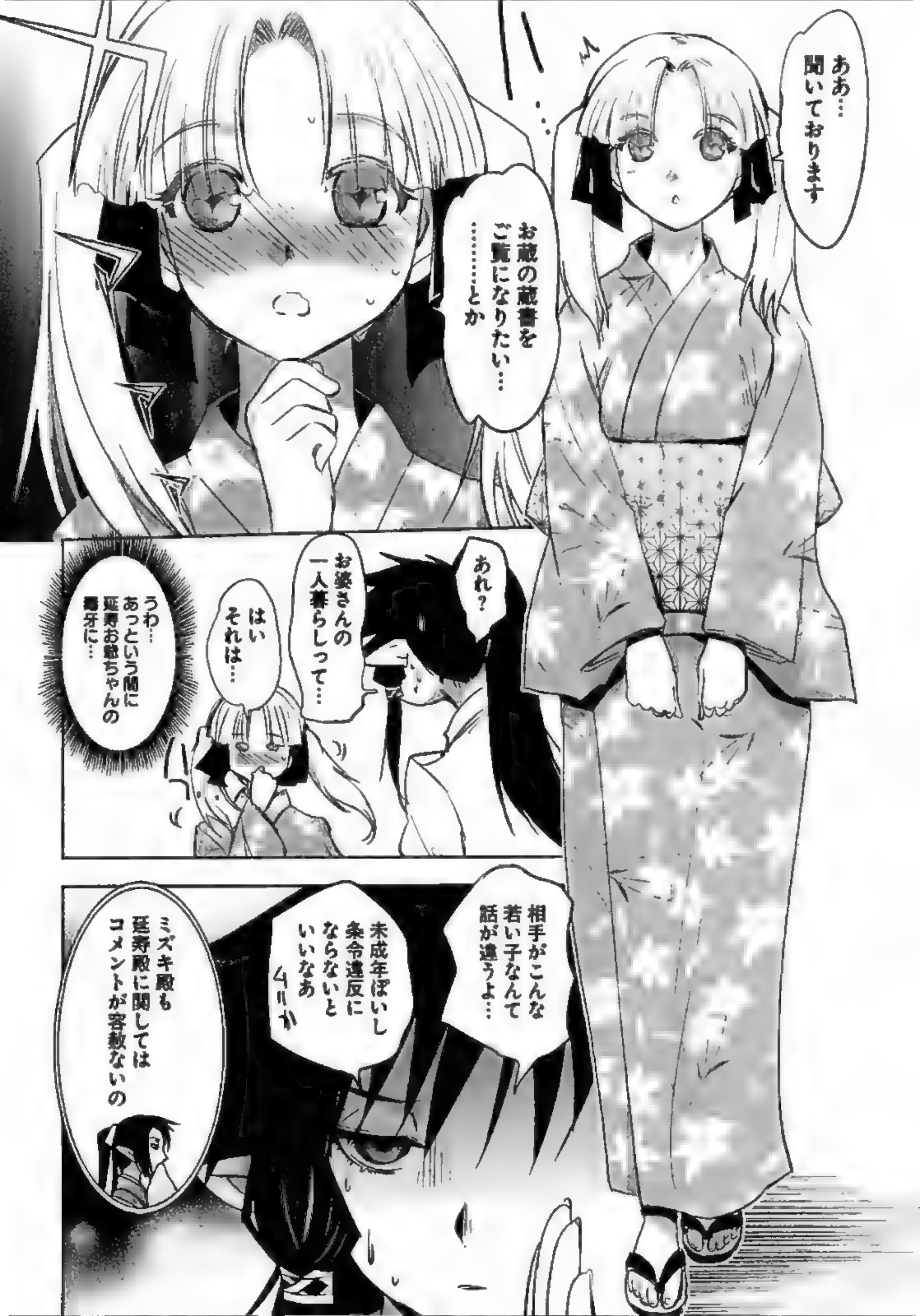



第二十三話
なびかないひと



うまく やっとるかのう 延寿のヤツ
昔から 巻き込まれては 色々と痛い目を 見るばっかり じゃったが…
むっ…
初めて 延寿のバカが 役に立つのと 違うか
まったくだね
昔っから なんでアイツが モテとるのか さっぱり わからんのだが…
アタシャ アンタが今まで 人一人殺さないで これたのも 不思議だけどね
まあ… みんな揃って 自覚の薄いこった
正直若い頃は 多少羨ましくも あったが…
いくら考えても わからなんだ
ははははは


ここのところ気にもせなんだがこうして考えるとやはりやっぱりわからん
口説くのが上手いとかじゃろか？
違うね
いっとくが延寿はそこらの誰よりも女心なんざわかっちゃいないさ
そんな努力なんざ必要なかったんだ
アイツの誑かすってな多分元の意味の「狂かす」なんだよ
よくわからんが外道な響きじゃ…
はいどなたでしょうか
あ…
あの…電話した宮森っていいます…
けど…


ああ…聞いております
お蔵の蔵書をご覧になりたい……とか
あれ？
お婆さんの一人暮らしって…
はい それは…
うわ…あっという間に延寿お爺ちゃんの毒牙に…
相手がこんな若い子なんて話が違うよ…
未成年ぽいし条令違反にならないといいなあ
ムリか
ミズキ殿も延寿殿に関してはコメントが容赦ないの


君は――
埴安さんのお孫さん?
はい
祖母に代理を任されました…
ペコ
埴安秋葉といいます
あ どうも 宮森です
秋葉ちゃんお婆さんの具合は?
都合が悪ければ無理は言わないんだけど
大丈夫です
クル
秋葉は全権を委任されているのです
お約束を違えることなどいたしません
トン
それと初対面のお年寄りに
馴れ馴れしく名を呼ばれるいわれはないのです


え？
え？
おわ？
お姉様！お名前はなんと仰います？
あ…ミズキです
ズイ
ミズキお姉様…
クル
クル


外は暑いのです
どうぞ
お上がりいただき
たいのです
冷たい粗茶など
いかがですか？
え
あ
はい
4回
延寿
お爺ちゃん？
なれなれしい
おとしより
ゴゴゴゴ
相手が
バアさんでは
あやつも嬉しくは
なかろうが…
フン



まあ先方には悪いが今回はアイツ頼みさ
延寿が本気になりゃ蔵書のひとつやふたつ貢いでくれるだろ
そりゃそれで後が大変そうじゃが…
延寿(あのバカ)の若い頃に比べりゃ半分も面倒じゃないだろ？
そうじゃなあ…
あのバカ最近は流石に面倒がって自分からコナかけたりしやしないが――
…ちょっと影のあるタイプが勝手に寄ってくるくらいさね
――しかしなんだかんだ言ってもアイツからコナかけて人生間違えない女なんざ見た事ないよ
これでこんな時だけソデにされおったら指さして笑っちゃるんじゃが
失敗を期待してどうすんだい
まあ見てみたいザマではあるね
ミーン
ミン
ミン
ミン


ねえミズキ
役に立ちそうもないし僕帰っていい？
暑いし
うん
ふてくされてるわけでもなく結構本気でそういうこと言う延寿お爺ちゃんわりと好きだから…
見捨てないで…
粗茶ですが！
ミズキお姉様！お食事はお済みです？


じろじろ見ないでもらえます？
ほら僕がいるとマイナスっぽくない？
お爺ちゃんが素の時なら受け流すひともいたけど…
とっときのおかしが
延寿お爺ちゃんがその気になってここまで冷たくあしらわれるの初めて見た…
やっぱちょっと楽しい
仕方なかろ
誰とて得手不得手はある
いやどっちかってゆーとあたしの方が苦手なんだけどああいうタイプ
年下ってどう接していいかわかんないし…
やれやれ…
ではミズキ殿ちと席を外せ
あの…トイレ貸してもらえますか？
厠でしたら――
やん


吾はミズキ殿の血縁でスザクと申す
ミズキ殿は急用が出来た故代わりに吾が――
苦しいなー
なんの問題もありませんスザクお姉様……
エキゾティック……


うむ 愛い童だの
あー……
名は？
秋葉です スザクお姉様
ドキドキ
ドキ
可愛い名だ
近う寄るがよい
ゴオ
ああ… お客様に そのような 失礼を…
かまわぬ



髪(くし)が乱れておるぞ
ピクン
ピク
あ……
くすぐったいのです
ズー
あふ♡
お姉さまそんなところを…
ふふ…
あふ♡
グー
中略


はふ
あ…
お姉様…
もっと…
…なんだろ
羨ましくはないけど
延寿お爺ちゃんの
気持ちが少しわかる
帰りたい…
どれ
秋葉とやら
はい…
そろそろ
件の蔵書とやらを
見せては
もらえまいか
はぁひ…
お姉様になら
何でもご覧に
いれるのです


はいよ
なんだって?
ああ
遅くなるんだね
思ったより
大量の書籍でね
ちょっと
時間が
かかるかも〜
取り入るのは
成功したんだね
まあ——
なんていうか…
観音様がみてる
感じ?
メロメロだね
なんだそりゃ
仕方ないが
気の毒に…
んー


今回は偉そうなこた言えないが…
あんまり巨大な後腐れを作んじゃないよ
おっけー
ピッ
ここはもうよい 次の棚
?
スザクお姉様…それでおわかりになるんですか？
ん？
内容確認だけだからの
ぜんっぜんわかんない…
書の類は古今暇つぶしに最適であった
すごいのです…
やれやれ ほんとに僕いらないや
楽でいいなあ
※本気


結論から言うと――
無い
書庫にあったのはせいぜい江戸後期からのもの…
寺の記録のような物自体見あたらなんだ
さすがにつかれた
ということは――
保管場所が違うか…
秘蔵中の秘蔵…ってことなのかな？
あるいは移送したか…管理者に聞くしかないなあ
ムー


秋葉
はひっ
祖母殿は伏せっておられるとのことだが…
ちと確認したい事があるので少しだけ話を通してはもらえまいか
酒はいい
それは…さすがに…
目的の資料が見あたらぬのだ
なんとか一言 行方を尋ねたい
ズイ
お姉様ご容赦を…
シュン
祖母はかなり体調を崩しているのです…
ビクッ
ズイ
あっ
そこをなんとか


なんとか
あっ
なんとか
あっ
あああッ
中略
わかりました…
お伺いしてみるのです
ああ…お婆さま
秋葉は悪い子です…


先日まではいくらお姉様といえどお通しするわけにはいかなかったのです……
ということは…回復なされた？
ほんの少し…
この半月…本当に元気がなかったのですが…
スタ スタ
スタ スタ
なにやら一昨日あたりから始めたおまじないが効いたようで
おまじない？
おかげで昨日から立ち上がれるくらいには回復なさっているのです
電話したときはそんなかんじじゃなかったけどなー
シャレじゃなく具合悪かったんだ
プラシーボ効果かな…おまじないもバカにできないね
あまり無理はさせられぬな


トントン
お婆さま
秋葉です
失礼いたします
お婆さま
お客様が
お聞きしたいことが
あるそうなのですが…
ゴクリ
よかった…
お目覚めに
なっているのです
お姉様
どうぞ
うむ
無理を言って
すまぬな
祖母は気丈なので
元気に振る舞って
おりますが…
無理はさせないで
ほしいのです
うむ
一言二言
聞くだけだ
失礼
埴安の御当主殿
寝所に押しかける
非礼をお許し
願いたい
吾らは――



第二十三話／完


お婆さま
お客様の前ですので
いつもの体操は…
ちょッ…
あわわわ
むう…
先回りされたのか
吾らが後追い
しておるのか…
うーん
この光量じゃ
動く被写体は
ツライなあ
ゴキ
ゴキ
ゴキ
ゴキッ
第二十四話
囁くひと


お婆さま！
おっと
あいたたた！
痛うっ！二人とも離れよ！


ああ
お婆さま
お許し下さい！
その方は秋葉の！……
いやそういう
問題じゃ
ミャアアッ
くっ…
この…
いたた…
んっ…
お爺ちゃん！
……!?
くっ！
きゃあああっ


秋葉ちゃん…
あらら
スザクさん大丈夫？
…大事無い…
ヨロ…
なんでやられっぱなしなの？
あいたた
うむ不覚であった秋葉が見ておるので躊躇したわ
あそっか…マズいんだ
初めて直に見たけど…あれが？
ブレてる…
うむ…今までと同じ呪にて括られた死人に間違いない

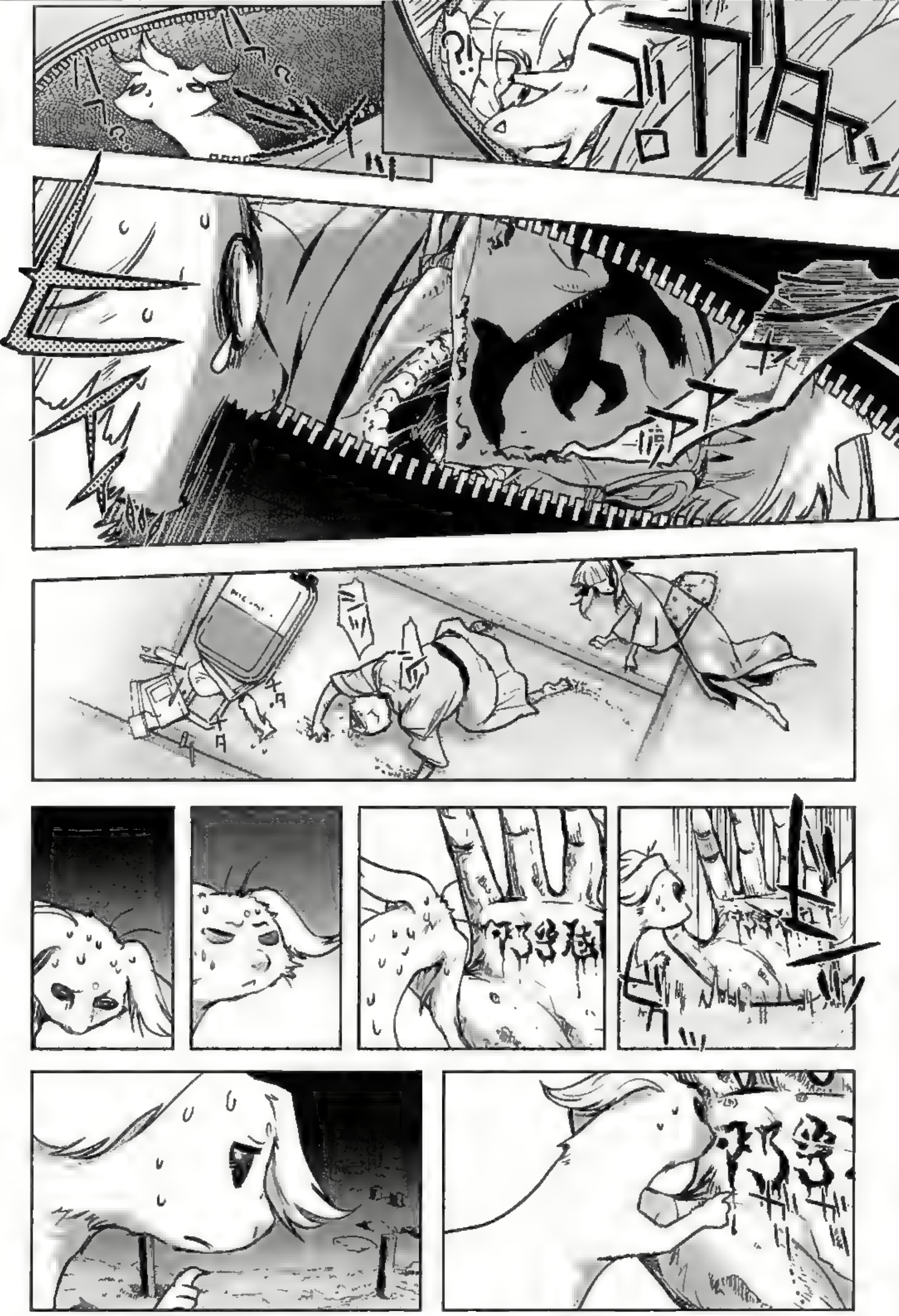


罠だったのかなー
…かどうかは わからぬが…
どのみち ここにはもう 重要な情報は あるまい
長居する理由は ないな
逃げちゃうの？
吾らの目的は 敵の相手を することではない
武蔵殿も おらぬし…
えっと… あの子は？
秋葉か… 危害を加える つもりであれば 今まで無事では 済んでおるまい
罠の一部である 可能性もある
なんにも 知らない風 だったよ？
フム
フム
あたしたちのせいで 巻き込んだ 可能性だって あるんでしょう！
学習せよ ミズキ殿
そのような選択は 相手に今後 付けいる隙を 与えるだけだ
でも…
まあまあ・・・ 二人とも
何を 言い合ってるのか なんとなく わかるけどさ


ここまで来て手ぶらで帰るのももったいなくない？
手がかりには違いないんだしさ
だが件の資料が実在したとして既にここにあるとも思えぬ…
それに延寿殿…
戦闘は避けるべきなのだわかっておろ…
だからさ
・・・・キミもできるんでしょ？
ちょっとアレお願いできる？
手応えはあったから自信あるよー
まさか…
ミカサ殿も武蔵殿もあれだけの抵抗があったものを…
なんで？面白そうじゃない
おお軽いの



ちょっとは役に立たないと帰り辛いしねー
やれ……まあよい
宮森の血を信用しよう
やっぱりーー!!
エーー!
さすがにミズキ相手だと照れちゃうしねー
同じだってば——!
ひーー




客間の方にいんの？
わからぬがフクウが眼を覚ました気配がある
そーいやすっかり忘れてた…
あーっフクが襲われてる！


お爺ちゃん？
待て ミズキ殿
埴安さん♪
羽織 借りちゃった
似合う？


？
フゥ‥
おお！止まりおった
カッコいーけどなんかやな…
延寿お爺ちゃん…若い頃ってこんなだったんだ…
確かに予想通りの美丈夫なれど…それだけであれが止まるものでもなかろう…
なにも感じぬのはミズキ殿の中におるせいか…
あたしが鈍いって言いたいの？
む…相手の様子がおかしい…
お爺ちゃん！


ガリ


おお…また止まった
可愛い手だね
ギュ…
お爺ちゃん危な…
大丈夫
これはまさか…
妖眼!?…
なにそれ…
吾も伝聞でしか知らぬ…
古の指導者にいたとかいなかったとか…
究極の人たらしの眼だ
生きてるうちに楽しみたかったね
キュ
残念だけど
僕のために・・・消えてくれる・・・?
お願い



ありがとね
……
ねえ…よく わかんないけどさ…
珍しく 感想が一致したの…
う〜む
僕ねー
惚れられた相手に 叩かれたことって ないんだよね
——最低だ——



死なれた事はあるけど
うわ…
敵を撃退したことについては敬意を表しよう
お爺ちゃんが悪人じゃなくてよかったと思う…
ミズキ殿の中ですら少し影響をうけるとは…すさまじいものだ
ん…
ピクッ
死人すら誑かすとは…
無敵の妖眼だの
でもないさ
なんの騒ぎなのです…
秋葉はどうしてこんなとこ…
お婆様?
お婆様!どうなさいました!
どーしよっかこれ?
露悪的な物言いをやめてはどうだ
お婆様?
お婆さま…息が…
いやあああ!


お婆様が！
ものすごく
満足げな顔をして
お亡くなりに！
むう
本当だの
あ…
うそ…
うそです！
ひぃぃぃぃぃん！
お婆様！
お婆様！
お
ねえ
ミズキ？
えっと…
いや…
だって巻き込んで
こんなことに…
ミズキが
何しようと
してるか
想像つくけどさー
敵がなんらかの
手を下した
可能性はあるけど…
話を聞く限り
鳩安殿 さてはほぼ
寿命だったと思うよ
我も
同意見だ


こんなふうに若返らせる？
それはそれで面白そうだけど…
そこまでは…
でもせめてちょっとくらい…
それで近々2度死ぬのかー
お願いだから・・・僕のときはやめてね？
面倒くさいや
いや…わかってるけど…
ミズキ殿
延寿殿の言葉の選び方はどうかと思うが…
大方の意見は吾も同じだと言っておく
その上でミズキ殿が望むなら吾に何を言う権利も無い
好きにせよ
そんな…


同情でも
自己満足でも
こんなに
哀しんでるなら──
ああ　あん
お婆様ぁ～
ドクン…
あ
あんあん
「僕のときは──」
いつか
あたしも…
受け入れ
られるのかな…
──あれ？
これって…
受け入れなくちゃ
いけないこと？
なんの・た・め・に・？
あなた方
お婆様に
何をしたのです！



お姉様も！いったい何者なのですか！
あ…あのね
キッ
素敵な方だと思ってご案内しましたのに！
警察を呼びます！
まあまあ秋葉ちゃん
誰ですあなたは！
お放し下さい！
え…
この子…お爺ちゃんになびいてない？…
そうか…さすがに妖眼といえども同性には効果がないのだな
へぇ…さすがに——って…は？
スザク…今なんて？
ん？まさか気付いておらなんだのか？


秋葉(アキハ)は男児であろ
だって着物着てて可愛くて
ええええ!?
ふむ…… 確かにこのような御稚児(おちご)には久々に会うた気がするの
そういう意味での稚児って現代では死語になってるからねー
官憲沙汰は色々と面倒か…
仕方ない
なるほどね道理で
それじゃあいくら僕でも…
延寿殿 誑(たぶら)かすのが無理ならここはいっそ事情を説明して——


……ちょっと本気を出さないとムリかなー
は？
なにを…


ゴオオオ


その後は――
チュン
チュン
秋葉ちゃん――ああ埴安さんのお孫さん…延寿お爺ちゃんの言いなりで
あ
まあ…警察沙汰を避けられてよかったさ
そのあと呼んだお医者さんも言いなりに死亡届を…
うふふふ
基本的な法的義務全部すっとばし…
いいのかなー
あのバカが若返ったんじゃ手なんざつけらんないさね
延寿殿の能力は知っておったがよもや妖眼持ちだったとは…
スイ
いやはや…恐ろしい家系だの
ありゃ妖眼ていうのかい
うむ…人誑しの眼…というかあそこまでゆくと支配者の眼だの


よくも只人でいられたものだ
アタシたちにゃ効かなかったからね
そのこと自体が異常なのだが…
んで結局資料は無かったんだね？
うむ
おまけに敵まで…
巻き込んじまったね…
先回りされたのか時限式の罠だったのかまでは分からぬが…
敵が他人に見せたくないものが存在したという証左ではあろうな
スザクお姉様お茶でございます
トタァーーー！
でこちらがその埴安さんのお孫さんの…
埴安秋葉と申します！お婆さま！
グルグル


ついてきちまった…と
ところで延寿様!?
延寿様はどちらなのです?
ふむ
秋葉は延寿様なしにはもう生きてゆけないのです!
この有様での…
なんとなく
まあ あのバカに誰かが入れあげるのは慣れっこだけどね
埴安さん
ピッ
秋葉とお呼び下さいお婆さま
ゴンゴン
秋葉さん…アンタこんなとこにいていいのかい?
はい…
お婆さまのお通夜や葬儀の準備があったのですが——
……
ダニのように集まってきた親族の皆様が任せろと仰るので…
大丈夫なのです
今更 何をやってもお婆さまの遺産は私のものなのです
延寿がひっかけてくるだけのこたあるね
やめて～


秋葉
埴安家の書庫に
ついては
何も知らぬのだな？
トントントン
また そのお話
なのです？
秋葉のことであれば
ミズキお姉様には
隠さずお見せ
いたしますが…
スルッ
お婆さまが
管理なさって
おられたものは
よくわからない
ので…
いただき
ましてあれー
ケップ
やっぱりもう
こっちのほうが
落ち着くなあ
延寿様ー！



誰でしてな？
はふん
ここにも
ステキな
お姉様が！
ここは
桃源郷？
でも秋葉の
心の広辞苑の
項目は全て
延寿様なのです！
ふふふふふ
イヤな
広辞苑だなあ
この子・・・
えーと？
なんでーー？
一回本気で
誑かしちまったら
年齢なんか
関係ないって
こったろ
純愛じゃあ
ないか
アンタが作った
巨大な後腐れだ
責任とってやんな
活躍したのに
いーことないねー
ア・・・


どのみち秋葉には色々と見られてしもうた
説明せざるをえまいよ
まあそのへんは延寿の言いなりだしなんとかなるさ
しかしその延寿殿が質問しても分からぬということは秋葉は本当になにも知らぬということ
やれ
手がかりは途切れたの
シュミじゃないなー
でもないさ
ほう？
こっちでも・・・とっかかりを見つけてね
まだ手がかりになるかどうかはわからないが——
第二十四話／完